平成２２年度全国高等学校総合体育大会【美ら島沖縄総体２０１０】
(第７８回　日本高等学校選手権水泳競技大会)

水 球 競 技 速 報 用 紙

平 成 22 年 8 月 19 日 (第 3 日)
会場:　プ　ー　ル

ｹﾞｰﾑ№ **13**

準々決勝①

帽子の色	白		青	帽子の色
	埼玉栄高等学校		福岡県立福岡工業高等学校	
	3	1 - 1 1 - 0 1 - 2 0 - 3 EX. - - P. T. -	6	

天候:　晴れ

審判1:　若林　和人
審判2:　槇橋　邦広

戦　評

ﾍﾞｽﾄ4一番乗りのﾁｰﾑはどちらか。白:埼玉栄は2回戦で佐賀東を延長の末の僅差で破り、勝ち上がる。攻撃の中心は④ｷｬﾌﾟﾃﾝ纐纈、退水の誘発、得点にと存在を示す。青:福岡工も富山北部との接戦を制し、勝ち上がってきた。得点源は⑫深川幹徳、ﾊﾞﾘｴｰｼｮﾝ豊富な個人技で、1年生ながらﾁｰﾑ最多得点。両ﾁｰﾑともにｼﾞｭﾆｱあがりの選手が多く、水球を知り尽くした選手同士の熱戦に期待。
１Ｐ　埼玉栄の先攻で始まる。お互いにｾｯﾄ攻撃、ﾏﾝﾂｰﾏﾝﾃﾞｨﾌｪﾝｽ。泳ぎはあるもののｶｳﾝﾀｰ攻撃には至らない。ﾌｧｰｽﾄｼｭｰﾄは埼玉栄、退水ｾｯﾄで④纐纈がｼｭｰﾄ、しかしｺﾞｰﾙﾊﾟｰにはじかれる。その後は長い膠着状態が続く。埼玉栄はﾌﾛｰﾀｰﾌﾟﾚｰやﾐﾄﾞﾙﾚﾝｼﾞからｼｭｰﾄを放つが、ｺﾞｰﾙﾈｯﾄを揺らせない。福岡工はﾊﾟｽがつながらずにｼｭｰﾄまでたどり着かない。残り1分をきり、やっと点が動く、0:50、埼玉栄⑧田嶋のﾌﾛｰﾀｰﾌﾟﾚｰ、2人のﾏｰｸを引きつけﾌﾘｰになった⑥永井へﾊﾟｽ、これを決める。
ﾛｰｽｺｱな展開での貴重な先制点を奪う。しかし勝負所をわかっている福岡工もこのままでは終わらせない意地の攻め、残り30秒を切ったところでの福岡工⑫深川幹徳のｶｯﾄｲﾝﾌﾟﾚｰ、ｺﾞｰﾙ正面で切り返し外へ出るところへ反対ｻｲﾄﾞからｾﾝﾀﾘﾝｸﾞﾊﾟｽが通る、0:25、深川幹徳は冷静にﾙｰﾌﾟｼｭｰﾄで得点。同点で第1ﾋﾟﾘｵﾄﾞを終える。攻撃のすべてをｼｭｰﾄで終わらせていた埼玉栄が試合の主導権を握っているように思えたが、福岡工ﾃﾞｨﾌｪﾝｽの頑張りも光った。
２Ｐ　攻撃をｼｭｰﾄで終わらせ始めた福岡工、ｶｳﾝﾀｰｶﾊﾞｰもでき埼玉栄の攻撃の芽を封じる。埼玉栄はﾐﾄﾞﾙｼｭｰﾄで応戦するが、ｺﾞｰﾙﾏｳｽにﾎﾞｰﾙが収まらない。緊張高まる一進一退の攻防は、両選手の体力を奪っていく。そんな中、埼玉栄にﾁｬﾝｽ、相手のﾐｽからのﾀｰﾝｵｰﾊﾞｰに素早く反応した⑤前場が渾身の泳ぎで速攻、敵ｺﾞｰﾙ前で退水を誘発、このﾎﾞｰﾙを追いかけてきていた④纐纈が得点し、２－１と1点をﾘｰﾄﾞ。福岡工の集中力も途切れず、お互いに攻め抜き、守り抜き、このままﾋﾟﾘｵﾄﾞを終了。ｴﾝﾄﾞを入れ替える後半へ。
３Ｐ　福岡工、この機を待っていたかのようにｽﾀｰﾄﾗｯｼｭを見せる。6:23、⑫深川幹徳がｶｳﾝﾀｰで抜け出し得点、同点。さらに、⑥浦山がﾌﾛｰﾀｰﾌﾟﾚｰで粘り退水を誘発、ｾｯﾄｵﾌｪﾝｽで1年生⑩石井が右利きながら、左からのｾﾝﾀﾘﾝｸﾞを前につめながらｼﾞｬｽﾄｷｬｯﾁ、即ｼｭｰﾄ。連続得点で福岡工が1点のﾘｰﾄﾞを奪う。ｼｭｰﾄを打ち続ける埼玉栄にもﾁｬﾝｽがこぼれ落ちる、4:33、ＧＫがはじいたﾎﾞｰﾙはﾌﾛｰﾀｰﾎﾟｼﾞｼｮﾝにいた②町田の前へ、これを押し込み、また同点。一気に点が動き始めた第3ﾋﾟﾘｵﾄﾞ前半だったが、後半は一転して点が入らない展開。埼玉栄のﾌｧｰﾙﾃﾞｨﾌｪﾝｽに福岡工は思い通りにﾊﾟｽを回せず、福岡工のｾﾝﾀｰﾎﾟｼﾞｼｮﾝを警戒したﾃﾞｨﾌｪﾝｽに対する埼玉栄のﾐﾄﾞﾙｼｭｰﾄは枠に収まらない。同点のまま、勝敗は第4ﾋﾟﾘｵﾄﾞへもつれ込む。
４Ｐ　このﾋﾟﾘｵﾄﾞもｽﾀｰﾄから福岡工がﾗｯｼｭを見せる。5:15、ﾀｰﾝｵｰﾊﾞｰ速攻、ﾊｰﾌﾗｲﾝを過ぎたあたりでﾎﾞｰﾙを受けた⑫深川幹徳は、そこからｼｭｰﾄ。前がかりになっていたＧＫの位置をよく見ており、ﾊｰﾌﾙｰﾌﾟで頭上を抜く技ありｺﾞｰﾙ、福岡工ﾘｰﾄﾞ。ところがすぐ次のﾀｰﾝで福岡工にＥx、埼玉栄ﾍﾞﾝﾁはﾀｲﾑｱｳﾄを請求。ここで同点に戻せるか、勝敗を左右するﾀｰﾆﾝｸﾞﾎﾟｲﾝﾄ。埼玉栄のｾｯﾄｵﾌｪﾝｽの間にさらに好機到来、4:21、福岡工のﾌｧｰﾙﾄﾗﾌﾞﾙでﾍﾟﾅﾙﾃｨｼｭｰﾄを獲得。しかし、このｼｭｰﾄは福岡工ＧＫ①三ヶ島のﾌｧｲﾝｾｰﾌﾞで阻まれる。これで気を落としたのか埼玉栄、3:50、福岡工⑤三島がﾊｰﾌﾗｲﾝを過ぎたあたりからＧＫの意表をつくｼｭｰﾄ、ﾎﾞｰﾙは滑るようにﾈｯﾄに吸い込まれた。焦る埼玉栄の高い位置からのﾐﾄﾞﾙｼｭｰﾄは精度を欠く、埼玉栄④纐纈は、福岡工⑫深川幹徳とのｴｰｽ同士のﾏｯﾁｱｯﾌﾟで機能させてもらえない。福岡工２点ﾘｰﾄﾞのまま時間が減っていく。1:51、埼玉栄に痛恨のＥxﾄﾗﾌﾞﾙ、勝負を決めに来た福岡工ﾍﾞﾝﾁは当然のごとくﾀｲﾑｱｳﾄを請求。このｾｯﾄｵﾌｪﾝｽは数回のﾊﾟｽ回しで簡単に⑤三島が決める。この時間での3点差、埼玉栄は万事休す。
ﾍﾞｽﾄ4一番乗りは福岡工、昨年は1回戦で惜敗したが、その悔しさが大きなバネになっているようである。目を見張るべきはやはり⑫深川幹徳、1年生ながらこの接戦でも3点を決めた。敗れた埼玉栄もﾃﾞｨﾌｪﾝﾃﾞｨﾝｸﾞﾁｬﾝﾋﾟｵﾝとして素晴らしい戦いをした。ＧＫを含むﾒﾝﾊﾞｰの半分は1・2年生、この激戦の経験は次への大きな糧となったはずである。

記　録　者	志水　啓介